

R2 学校自己評価アンケートの集計結果(南校地)

春寒の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素から本校教育活動にご理解ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、昨年末実施した標記アンケートの分析と集計を以下および裏面のとおりお知らせします。皆様から寄せられた貴重なご意見等を踏まえて次年度の学校運営、教育活動の改善に取り組んで参ります。特に自由記述の欄には、感謝や励ましのお声とともに、具体的な問題点の指摘や要望を頂きました。これらを踏まえ、各分掌で適切に対応して参ります。今後ともご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を育む効果的な教科指導の工夫

1. 教員が様々な場面や集団で ICT 活用など指導力の向上に励み、効果的な指導を行う。

分析：いずれも 80%以上の肯定的な回答を得た。休校期間中の YouTube 動画配信や G suite for Education 等を活用した教育活動や各教科の研究・取組などによって高い評価が得られた。さらに、次年度から実施される一人一台端末を契機に更なる指導力の向上が求められる。

2. 朝読、小論文指導、共通テスト対策、速読など教科や年次団の様々な取組を通して学力を高める。

分析：いずれも 80%以上の肯定的な回答を得た。基礎学力を測るスタディーサポートにおいて、1年から2年への基礎学力の伸び率は県下の高校で一番であった。

2 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成

3. 主権者教育を中心として主体的に社会に貢献する力を育て、進路実現できる力を身につけさせる。

分析：いずれも 80%程度の肯定的な回答を得た。様々な教育活動が制限される中で、主権者教育を中心に最大限の取り組みができた。本校の強みである主権者教育が保護者にも認知されていると思われる。また、新たに実施した SDGs の中学校への出前授業も継続、発展させていきたい。

4. 各種委員会の学校生活改善に向けた啓発活動を活発に行い、社会に貢献できる力を育成する。

分析：保護者・教職員は 80%以上の肯定的な回答を得た。自主的な活動が減少したためか、生徒の評価がやや低い。自主的な活動の確保と啓発活動の工夫が必要である。

3 学校と家庭、学校と地域、校地間、学科間の連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進

5. 市内小中学校や新見公立大学、官公庁・各種団体など広く連携を深め教育活動を行う。

分析：教員は 95%以上の肯定的な回答であった。学校連携コーディネーターの配置により、新見みらいづくり会議への質問会、地元の方による講演会など、今までにない教育活動を展開できた。学校としては非常に注力している部分なので、どう伝えていくかが課題であると思われる。

6. 業務内容を見直し、負担の軽減・平準化・計画性を高め、効率的な教育活動を推進する。

分析：教職員の肯定的意見が 55%以下となり課題を残した。教員の働き方改革を念頭に、様々な部署で業務内容の見直しに取り組んだが、回答結果を素直に受け止め、更なる改善が必要である。

4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開

7. 生徒会活動、委員会活動をはじめとした新見高校教育活動の魅力増進を図る。

分析：生徒・保護者からは 80%程度の肯定的な回答を得た。生徒会や委員会を中心として、建設的な活動が生徒・保護者に伝わっていると考えられる。

8. 本校生徒と保護者、地域をはじめ内外に広く本校の教育活動を効果的に広報する。

分析：教職員は 80%以上の肯定的な回答であった。今年度は、中学校に対してアンケートを実施し、それをもとに情報発信ができた。また、ホームページを更新し、報道機関や市報にのみ等を通じて可能な限り情報発信をした。保護者への広報の工夫が求められる。

R2 学校自己評価アンケートの集計結果(南校地)

【肯定回答の状況(南校地)】

※左側の横棒グラフは全回答、右側の横棒グラフは E(わからない、判断できない)回答を除く

1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を育む効果的な教科指導の工夫

1. 教員が様々な場面や集団で ICT 活用など指導力の向上に励み、効果的な指導を行う。

	50%	100%		50%	100%
1. 生徒			86.5%		
2. 保護者			71.9%		
3. 教職員			84.9%		

2. 朝読、小論文指導、共通テスト対策、速読など教科や年次団の様々な取組を通して学力を高める。

	50%	100%		50%	100%
1. 生徒			91.6%		
2. 保護者			76.1%		
3. 教職員			84.8%		

2 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成

3. 主権者教育を中心として主体的に社会に貢献する力を育て、進路実現できる力を身につけさせる。

	50%	100%		50%	100%
1. 生徒			86.5%		
2. 保護者			73.7%		
3. 教職員			90.9%		

4. 各種委員会の学校生活改善に向けた啓発活動を活発に行い、社会に貢献できる力を育成する。

	50%	100%		50%	100%
1. 生徒			74.1%		
2. 保護者			71.9%		
3. 教職員			84.9%		

3 学校と家庭、学校と地域、校地間、学科間の連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進

5. 市内小中学校や新見公立大学、官公庁・各種団体など広く連携を深め教育活動を行う。

	50%	100%		50%	100%
1. 生徒			67.7%		
2. 保護者			65.9%		
3. 教職員			87.9%		

6. 業務内容を見直し、負担の軽減・平準化・計画性を高め、効率的な教育活動を推進する。

	50%	100%		50%	100%
1. 生徒			63.7%		
2. 保護者			47.5%		
3. 教職員			48.5%		

4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開

7. 生徒会活動、委員会活動をはじめとした新見高校教育活動の魅力増進を図る。

	50%	100%		50%	100%
1. 生徒			80.1%		
2. 保護者			70.1%		
3. 教職員			75.8%		

8. 本校生徒と保護者、地域をはじめ内外に広く本校の教育活動を効果的に広報する。

	50%	100%		50%	100%
1. 生徒			74.9%		
2. 保護者			59.9%		
3. 教職員			75.8%		